

命の炎

(原文は英語)

ララ・スタンチェバ (11 歳)
北マケドニア・スコピエ市
OOU ラゾ・トリポフスキー

「世界では、食べ物に対する飢えよりも、愛と感謝に対する飢えのほうが大きいのです」

——マザー・テレサ

人生は、決して後戻りすることのできない旅です。私がそれを知っているのは、祖父母がもう戻って来ないからです。長い旅をする人もいれば、生まれてこなかった私の双子のもう一方のように、短い旅をする人もいます。しかし、彼らのことをこの作文に書くことで、今、彼らは生きています。この人生という旅では、美しい場所を訪れることもあれば、廃きよを目にすることもあるでしょう。悪い人間に出会うこともありますが、良い人間にも出会えるにちがいません。私が、あの心の広いホームレスの男の人に出会ったように。

ある日の午後、学校から帰る途中、小さな公園で一人のホームレスの男の人を見かけました。草の上に座り、硬くなった最後のひとかけらのパンを老いた指で押しつぶしていました。そのパンくずを周りにまくと、すぐさま数羽のハトが草の上に飛んできました。その人は笑みを浮かべ、友だちのハトが来てくれたので幸せでした。その瞬間、その人はもう独りぼっちではありませんでした。私はカバンの中から食べ物を取り出し、そのホームレスの男の人に渡しました。ですが、彼は受け取りませんでした。そして、花を売っている年長いた女性の方を指さしました。この日から私は、その女性に食べ物をあげるようになりました。

食べ物に困らない人でも、一緒に食べる人がいないと不幸せなこともあります。誰かと何かを分かち合えば、悲しくも寂しくありません。幸せは、与えられる時だけに感じるものではないのです。

私は、あの男の人に人生とはいったいどのようなものかを書いてもらえたらと思います。そして、彼が何も無い時にも分かち合い、住む場所がない時にも暖かさを感じ、家族がいなくても愛され、お金がなくても必要とされる人生について。

今月、あのハトたちは、毎日その公園にやって来ては友だちの男の人がエサをくれるのを待っていました。ですが、彼は来ませんでした。新型コロナウイルス感染症にかかり、彼の命を救おうと医師が懸命に治療をしていると聞きました。彼は、ウィルスから身を守るマスクを買うお金がありませんでした。

命が何物にも代えがたい贈り物であるならば、裕福な人たちにとっても、貧しい人たちにとっても、命は等しく大切なものです。ですから、地球上のあらゆる生き物の命には尊厳があり、その命は敬わなければなりません。病人にはいやしを、お腹をすかせた人には食べ物を、難民には救いを与えなければいけません。私は、あの心の広いホームレスの男の人の命を、優秀な医師たちが救ってくれることを願っています。友だちのハトが彼を必要としているのですから。私たちは皆、互いを必要としているのです。

私の家の前には若い桑の木があり、その下には大きな木陰ができます。隣近所のお年寄りたちは、この木陰のベンチで一休みをします。素晴らしいのは、その木が私より大きくなったことです。私が3歳だった頃は同じ背丈でした。私たち家族がその木に命を与え、そこに植えて世話をしてきました。

私の家族は裕福ではありませんが、額に入った釣り用の毛ばりをオークションに出し、得たお金をミュンヘンとパリの病院に入院している小児ガンの子どもたちに寄付しました。

私は友人と一緒に小さなマスが川の下流から上流まで運んだことがあります。途中で大きな滝があり、マスがそれを飛び越えることができないからです。服は村の友人にあげます。私のブーツはその子が履いて草原を走り回っています。私のコートはミラが着て、冬を温かく過ごしています。自分には不要なものでも、他の誰かにはとても役に立つことがあります。

鳥にエサをあげれば、歌を歌ってくれます。お年寄りに手を貸してあげれば、知恵を授けてくれます。この世に一つしかない母なる大地を大切にすれば、地球上のあらゆる生き物に永遠の命を授けてくれます。

命とは、未完成の本、まだ語られていない物語です。私の母の優しい声が聞けなくなる時が来たら、私とその命の本を受けつぎ、続きを書き、語ろうと思います。私は、あらゆる生き物の命が決して消えることのない星を、目を開けて夢見ています。命は炎です。人生という旅の目的は、地球というかけがえのない星に暮らす命が続いていくよう力になることです。命の炎を消してはいけません。